

バリの女性舞踊の動作特性について

The characteristics of Balinese female dance motion

中村 美奈子^{*1}
Minako Nalamura

^{*1} お茶の水女子大学文教育学部芸術・表現行動学科
Course of Performing Arts, Faculty of Letters and Education, Ochanomizu University

I measured the motions of the dancing of the professional native Balinese dancer and those of the Japanese Balinese dancer by using a motion capture system, and I also interviewed both of them. This study analyzed the Balinese female dance motion from the viewpoint of the interdisciplinary researcher of Information Science and Dance Ethnology.

1. はじめに—バリ島の舞踊とその背景について

バリは、インドネシア共和国の1州であり、デンパサール市を州都とし、1都8県からなる。住民の9割以上がバリ・ヒンドゥー教(バリ固有のヒンドゥー教)を信仰しており、イスラム教徒が大半を占めるインドネシアの中であって、独自の文化的位置を占めている。

バリの芸能、特に舞踊は、その宗教性の強さによって、ワリ(Wali:もともと宗教性が強く儀式の一部をなすもの)、ブバリ(Bebali:いわゆる奉納芸)、バリバリーアン(Balih-balihan:宗教的文脈のない鑑賞用の舞踊)の3段階のジャンルに分けられる。本研究の対象とする女性舞踊は、バリバリーアンの中の、タリ・ルパス(Tari Lepas)というジャンルに属する「物語性を持たない舞踊」である。

バリの舞踊には、gerak(「動き」の意味)という様式化された舞踊動作として意味をもつ単位があり、名称を与えられて分類されており、踊りの分節としてとらえることができる。ひと続きの動きのようにみえる踊りも、いくつかの構成要素の時間的な連続によって成り立っており、要素の統語法といえるようなものが存在している。[Bandem 1983] [Arini 2014]

バリ島はすでに1930年代から欧米人を対象とするリゾートとしての開発が行われてきており、観光向けの芸能(舞踊)も多く創られてきている。また、芸術としての舞踊についても、毎年6月半ばから7月半ばにかけてデンパサール市にあるアートセンター(Taman Budaya)において開催され、今年で37回目を迎えるバリ州芸術祭(Pesta Kesenian Bali)などにより活性化されている。この芸術祭は、現在では外国からの参加団体も多く、日本人を含む、外国人のグループによるバリ舞踊の公演も盛んに行われており、筆者もバリ舞踊のダンサーとして数回、舞台に立ったことがある。このようなグローバル化が進む近年のバリの状況の中で、外国人、特に日本人が踊るバリ舞踊は、バリ人のバリ舞踊の専門家にどのようにとらえられているのかという関心から、本研究に至った。

2. 本研究の目的と方法

筆者は、「文理融合型の民族舞踊研究」という視点から、民族舞踊(および民俗舞踊)の「わざ」を、フィールド調査で得た舞踊の指導言語や現地の人々によって言語化された舞踊動作の用

連絡先: 中村美奈子, お茶の水女子大学文教育学部芸術・表現行動学科舞踊教育学コース, 〒112-8610 東京都文京区大塚2-1-1, nakamura.minako@ocha.ac.jp

語などを手がかりに分析し、さらに、モーションキャプチャ計測により定量的に検証していくという試みを理工系の研究者らとの共同研究として行ってきた。[池田ら 2006] [中村 2011]



図1. パニャンブラマ(歓迎の踊り)

本研究では、まず、バリ人の女性のプロフェッショナルダンサーと、日本人の女性のバリ舞踊ダンサーのモーションキャプチャによる舞踊の動作計測を行い、次に、両者に聞き取り調査を実施し、バリ人のバリ舞踊ダンサーと日本人のバリ舞踊ダンサーの踊りの違いや、バリの舞踊における「上手い」踊りとはどういうものであるか、という点を中心に、バリの女性舞踊の動作特性について文理融合の視点から考察を行うことを目的とする。

動作計測には、MAC3DSYSTEMのRaptor-E(スポーツ計測用のカメラ)18台を使用し、バリの女性舞踊で子供たちが最初に習う基本的な踊りのひとつである『パニャンブラマ Panyembrahma (歓迎の踊り)』(図1)の動作計測を、二人の研究協力者の協力を得て行った。また、二人には計測後のデータを見てもらいながら、バリの女性舞踊の動作の特徴やバリ人と日本人の舞踊動作の違いがみられるのかどうかについての聞き取りを行った。なお、本研究では、モーションキャプチャデータは、データを可視化することにより、動作観察の一助として利用した。

3. 結果と考察(1)—聞き取り調査を通して

本研究で聞き取り調査とモーションキャプチャ計測の両方に協力していただいたのは、次の二人の研究協力者である。



図2. バリの子供たちの舞踊の練習風景

・A先生: バリ人の女性のプロのダンサー兼、日本人を含む外国人への舞踊指導経験を豊富に持つインドネシア国立芸術大学デンパサール校 (ISI Denpasar) の舞踊科教授。

・Bさん: 日本人の女性のバリ舞踊ダンサー、同芸術大学の学士課程を修了後ダンサーとして活動中。なお、両者とも 20 年以上のバリ舞踊ダンサーとしてのキャリアを持っている。

また、お二人に加えて、聞きとり調査のみ、筆者のバリ舞踊の師匠であるC先生にも協力していただいた。

・C先生: バリ人の女性のプロのダンサー兼、日本人を含む外国人への舞踊指導経験を豊富に持つ同芸術大学の舞踊科教授。キャリア 20 年以上。

本章では、上記の 3 人に対して、1. バリ人のバリ舞踊家と日本人のバリ舞踊家の踊りの違いはどのようなところにあるか、2. バリの舞踊において、「上手い」踊りとはどういうものであるか、という問いかけを端緒に半構造化インタビューを行った。その結果から、以下のことがあきらかになった。

3.1 身体文化としてのバリ舞踊

3 人に共通した回答として、バリ人であろうと日本人(外国人)であろうと、生まれてからのその人の文化的な背景がその人(ダンサー)のほとんどを決定づけるということであった。人は、生活体験や体験的な学習を通して育まれた文化的な身体を持っている。特に、バリの場合は、お腹の中にいる時からガムランを聴き、幼い頃から集会場、寺院で体験的に学び、更にはテレビ放送でもバリ舞踊を観たりすることを通して、脳や身体にその音楽

や舞踊が刻みこまれる。そこが日本人(外国人)とバリ人との圧倒的な「差」であるということであった。現在では、バリ舞踊は、幼稚園や小学校でも授業の一環となっているようである。(図 2)

筆者の体験であるが、日本に嫁いできたバリ人の女性に(その人は、バリ舞踊を専門的に習った経験のない人であったが)日本人がバリ舞踊を教えたところ、次第に踊れるようになり、最後には日本人が逆に踊り方を習う(真似る)ようになってしまったということがあった。文化的な身体が、鍛練の機会を経てより洗練された形で現れてきたということであろうか。

一方で、「具体的に日本人とバリ人とは動きが違う例があるか」という問いに対しては、「外国人もしっかり学習することにより、動きに関しての差はなくなる」という回答であった。但し、文化や宗教的な背景も大きく、バリ舞踊はバリ人に「合っている」ということであり、動きの質的な面については、やはり、「バリ人である」ことが重要のようであった。実際、宗教儀礼の所作なども、舞踊の中で抽象化されて用いられているため、子供のころから身体化され所作が、踊り方にも強い影響を与えていることは容易に推測される。

3.2 役割に合った身体表現の重要性

2 つ目の問い、バリの舞踊において、「上手い」踊りとはどういうものであるか、についての回答として、やはり 3 人が共通して一番に指摘したのは、踊り(身体表現)が演じる役割に「合っている」ことであった。それは、踊り手の身体についても同様で、踊り手の体型や顔が踊りの役割に合っていることが「上手い」踊りの条件であるということである。身体的条件に関しては、1 つ目の問いの日本人がバリ舞踊を踊る際にも同様のことが言えるであろう。つまり、バリ人が理想とする役割に合った体型や雰囲気、目鼻立ちであることが重要ということである。

バリの女性舞踊には、女性的な優雅なタイプの踊りと男性的な(中性的な)勇ましいタイプの踊り(ブバンチアン Bebanjian)があり、どちらを踊るかについての規定や制限はない。しかし、大抵はどちらか自分に「合った」タイプの踊りに特化して踊るようになり、また、特化している人のほうが上手い踊り手として認識されていることが多い。ちなみに、A先生は、前者の優雅なタイプの踊り手であり、C先生は男性的なタイプの踊り手である。

また、役割やタイプに関連して、A先生は、その踊りの役割に合った精神性や表情、踊りにボリュームがあること(淡々とした踊りではなく踊りに微妙な波を付けられること)も重要な要素であるとし、一番のポイントは、「魂から踊れること」と語っていた。また、C先生は、舞踊のテクニックだけでなく、音楽との協働性(互いにシンクロしていること)が高いものが上手い踊りであると語っていた。

4. 結果と考察(2)ーモーションキャプチャ計測から

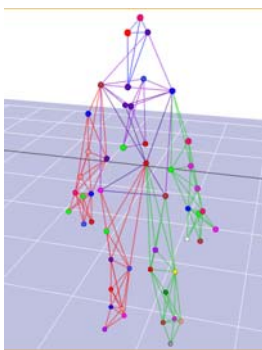


図3. マーカの装着図

モーションキャプチャ計測のカメラ配置およびマーカの装着図は次の図のとおりである。(図 3) MAC3DSystem の Raptor-E を 18 台、大学のダンス室に設置し、50 個(うち指に関する部分 6 個)のマーカを付けて計測を行った。(図 4)

4.1 上半身の動作の連動性

A先生は、モーションキャプチャのデータは、「線」として動きがみえることが特徴であるととらえ、上半身の各部位の連動した動きを示す

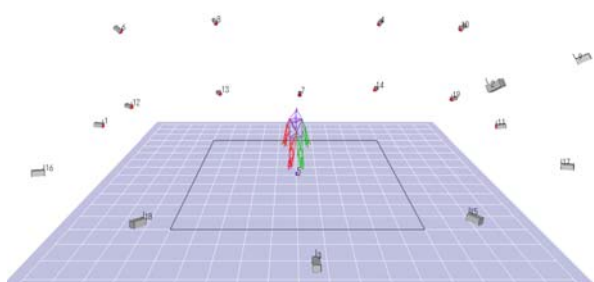


図 4. モーションキャプチャカメラ配置図

ことができるのではないかと回答であった。女性舞踊の上肢の動きの要は手首にあり、基本となる動作は、ウクル(ukel, 中指が先導して手首を内側から外側へと回転させる動作)であるという。(図 5) また、舞踊の熟練者の動きの特徴は、上半身のなめらかな連動した動きであり、腕(手首, 肘, 肩), 体幹, 首までがなめらかに連動して動くことが必要であるという。今回は非熟練者のデータを取得していないため、比較検証はできなかったが、舞踊の熟練度を示すひとつの指標になると考える。本研究のデータによれば、両者のデータから、連動してなめらかに動く軌跡を確認することができた。(図 6)

腕は、A先生によれば、手首の力(緊張)が重要であり、ここにエネルギーを込めるような感じで、そのエネルギーをひじから背中にかけて伝えていくように動かすことが重要であるということであった。

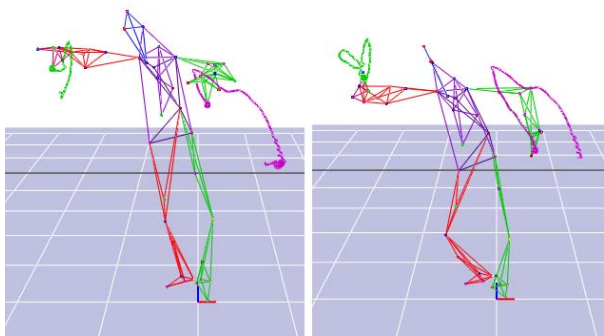


図 5. ウクルの中指の動作の軌跡(2動作)

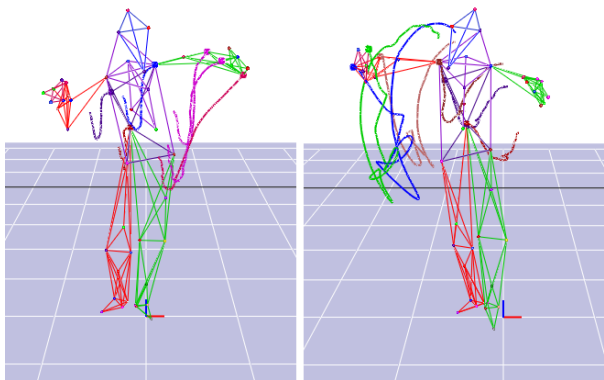


図 6. 上半身と腕の動作の軌跡

4.2 動きのしなやかさ

A先生は、動きの軌跡を線として見ると、熟練している外国人の動きとバリの動きはほぼ一定になるであろう(例えばB氏と芸術大学の学生を計測した際はほぼ同じ結果になるだろう)と予測する。すなわち、「動き」に関しては、日本人(外国人)も高いレベルの舞踊テクニックの習得が可能と考えておられるようであった。一方で、「芸術大学の教授などさらに熟練している舞踊家と外国人の熟練した人とは微妙な動きの差が出てくる」とし、それは、女性舞踊の場合であれば、やわらかさやしなやかさとして、女性の男振りの踊り(ブバンチアン)や男性舞踊などであれば、力強さやキレなどの違いとして現れるであろうということであった。本研究で対象としているのは女性舞踊であるので、動きのやわらかさやしなやかさということになる。今回は定量的な分析を行うことはできなかったが、前掲のマーカの軌跡の表示機能や、Motion Trail 機能(図7)を用いて可視化することにより、動きが滑らかに推移する様子を確認することができた。

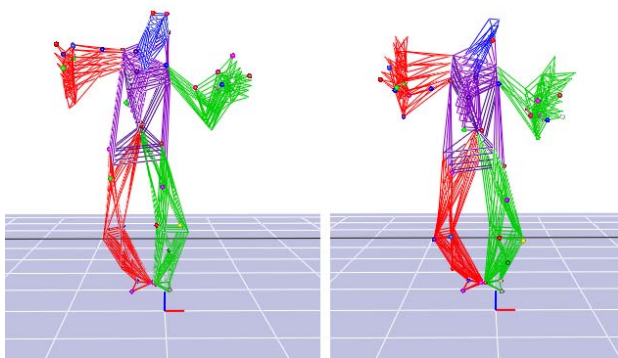


図 7. Motion Trail による動作表示

5. まとめと今後の課題

本研究では、モーションアナリシス社の提供する CORTEX の Motion Viewer(Viewer はフリーソフト)を用いて、モーションキャプチャデータを可視化してスティックピクチャーの 3DCG をコンピュータ画面上に表示し、A先生とBさんに見てもらいながらの聞き取り調査を行った。(図 7)

聞き取り調査においては、「身体」あるいはその内奥にある精神的な部分に関する言及が多かった。バリの舞踊は、身体の内側に強いエネルギーを込めて踊ることが重要であり、動きそのものというよりは、動きを生み出す身体やその推進力に重きをおいていることがあきらかになった。

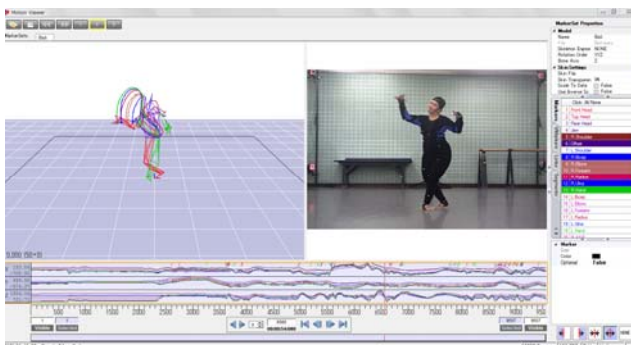


図 7. Motion Viewer の画面の例

今回の研究協力者らは、いずれもモーションキャプチャや機械的な計測をするのが全く初めてであり、コンピュータ画面で舞踊動作を観ることも初めてであった。コンピュータ画面上で 3 次元的に視点を変えて動きを見ることもでき、動きの軌跡をマーカの軌跡として表示することもできるため、通常の聞き取りよりは、「動き」そのものに関する言及を引き出すことができたのではないかと考える。

本研究では、モーションキャプチャデータを可視化して映像シミュレーション的に用いるという限定的な利用にとどまっているが、今後、バリの女性舞踊の手首の動きを推進力とした上半身の動作の連動性という特性や、動きのしなやかさをつくる要素についても、被験者数を増やし、数値データ等から詳細な分析を行っていく必要があると考えている。

謝辞:本研究の一部は、平成 26 年度シミュレーション科学教育研究センター経費(学内科研費)および、科学研究費(研究課題番号:26350269)の助成を受けて行った。また、モーションキャプチャによる動作計測実験については、(株)ナックイメージテクノロジーより、技術協力をいただいた。

参考文献

- [Bandem 1983] Bandem,I Made ed. : Gerak Tari Bali-Laporan Penelitian, 1983.
- [Arini 2014] Arini, Ni Ketut ed.: Teknik Tari Bali, 2014
- [池田ら 2006] 池田宏子,小島一成,中村美奈子: 岩崎鬼剣舞の「ザイ」の動作特性—モーションキャプチャによる動作計測と舞踊の指導言語の分析を通して—, 情報処理学会研究報告 2006-CH-71(7), 情報処理学会, pp47-54, 2006,.
- [中村 2011] 中村美奈子: インドネシア・バリ島の舞踊の動作分析—文理融合型の民族舞踊研究の視点から—, 舞踊学の現在—芸術・民族・教育からのアプローチ, 文理閣, pp.178—191, 2011.